

ずれ乗せてくれなくなりますよ』と言われました。

礼を尽くす時は勿論出来る限りマスクは着用しますが、
いったい私たちが今暮らしている空間は、何処なのでしょう？

Life in the labs ?

かつて『孫子の代まで借金を残すな』と、国があたかも市中の株式会社のように借金まみれだと喧伝し、増税を叫んでいた時代が懐かしくなって来ました。米国は 200 兆円を **Virus** 対策に拠出して、最近財務大臣に就任した前 **FRB** 議長、ポーランド系ユダヤ系イエレンは『まだまだ甘い』と言っているようです。世界の中央銀行時代は無尽蔵にドル札を刷り、今は無尽蔵に国債を刷っている事になり、そして、まだまだ……と言っていると聞きます。

私たちは、何の実験に立ち会っているのでしょうか。

私たちの暮らすこの世界は、いつの間に巨大な実験室になったのでしょうか。

子供のころにプロ野球のペナントレースを 1 強 5 弱と表現していましたが、数字は別にして要は 1 強というところが味噌です。そうすると、5 弱はどのように生きれば良いのか考えてしまいます。

- 1 強に媚びを売っておこぼれを待って暮らす。
なかなか、いい方法で、この生き方は結構隠れた人気ようです。
- どうせ俺なんかと拗ねて暮らす。
続けられれば、これベストチョイスかも知れません。
- この世に正義なんてないと開き直って暮らす。
気合が必要なので、体力に自信があれば選択肢のひとつかな。
- なめんじゃねえ、と対抗して生きる。
政治力も、軍事力もなく、ましてやペンの方でなど甘えた事ではなく、対抗できる文化圏を築ければ案外遣り甲斐があるかも。

看板商品を携えてスターになろうなんて、努々考えては駄目で、私のような凡人は日々地味なことに努力を積み重ね、牧水のように、ひとつずつ山を越えていくことを選ぼうとしています。

私たちが選んだ職業は、食糧品の販売です。食糧品販売の使命は、SNS でバズル事ではなく、食べる人の身体の健康と健全な精神の育成です。意味なく付和雷同を煽る事ではなく、日々の暮らしに根付いていく人間としての価値観の提供だと考えています。

王様の領民へのメッセージは、無責任で腹が立ちますが意味正しい側面もあります。無責任というの



は、煽ってひとり権力を握って来たのはあんだらうとの批判です。もっとも政治力と軍事力が権力ですので、だから王様なのですが……王様がどんな志向をしようとする領民には関係なく、領民が政治力と軍事力を支えているのであれば、健全な暮らしを構築していく先に 5 弱の最初の生き方は減少していくことに期待を寄せているだけですが、間違っているでしょうか？

上の画像は、夢破れた私の畑の再興です。イノシシの猛攻によって屈して放置していた石垣を組み直しました。イノシシには浜側を通るルートから入って来られないように、ブッシュを柵代わりにしています。ここで薬膳素材の栽培をしながら『薬膳の里』を作って皆さんが来てくれることを待とうと思っています。

有限会社アルファー
吉田清一郎